

令和7年度 第3回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和8年2月18日(水)
開会 午前9時30分 閉会 午前10時30分
- 2 会 場 小松市役所3階会議室
- 3 出席者 小松市長 宮橋 勝栄(議長)
小松市教育委員会
教 育 長 山本 民夫
委 員 中惣 恭子
委 員 村井 啓介
委 員 浅蔵 一華
委 員 表 幹也

(事務局関係)
総合政策部長 藤井 勝司
総合政策部 総合政策課長 太田 司
総合政策部 総合政策課主査 秋野 力
教育委員会事務局 事務局長 長谷川 巖
教育委員会事務局 教育庶務課長 中川 久美子
教育委員会事務局 学校教育課長 新名 孝
教育委員会事務局 教育研究センター所長 中田 一宏
- 4 討議事項 ・令和の日本型学校教育の推進について
・情報リテラシーに関する取り組みについて

5 会議の経過及び発言

○開 会

○宮橋市長あいさつ

- ・本市において学校の配置最適化に取り組んでいるが、それが目的ではなく、子どもたちがいかに良い学びができ、そして良い人生につながっていくか、その中でいろいろな教育環境を充実させていくということが一番重要だと捉えている。
- ・本日の議題である令和の日本型教育、情報リテラシーはまさに教育環境の充実に直結する非常に重要な視点だと思っている。社会変化が急速に進む中で、子どもたちが自ら考え、他者と協働しながら学ぶ力をしっかりと育むこと、そして様々な情報があふれている中で自ら正しく判断をして評価・活用する力を身につけていくことは、これからの教育において欠かすことができないことである。

- ・教育大綱の中でも「学びの Best Balance」という方針を掲げており、子どもたちの能力を伸ばしこぼれなく高め、従来型の教育の良さと、これからの教育の良さを両立し取り組んでいきたい。
- ・教育委員の皆さんも学校への計画訪問等で授業等を見ていただいている中で、気兼ねなく率直なご意見をお願いしたい。

○討議事項 1

- ・令和の日本型学校教育の推進について

<議長>

- ・議題「令和の日本型学校教育の推進」について説明をお願いしたい。

<教育委員会事務局 新名学校教育課長> (別添資料に基づき説明)

<議長>

- ・これまで取り組んできたこと、現状と課題、目指すべき方向性を説明いただいた。教育委員の皆さんから、授業等を見られた上で、忌憚のないご意見を伺いたい。

<中惣委員>

- ・授業を拝見して一番感じていることは、教員に格差があること。もしかすると ICT の活用を始めてから、その差がより大きくなっているのではないかと考えている。
- ・例えば、ICT の活用がうまくいかず、子どもたちをよく見ていない先生方が多いと感じることがある。先生方は様々な研修を受けていると思うが、あまり成果が出ていない方もいるのではないか。
- ・教員不足によって心身共にゆとりがない、学校での他の役割も多く ICT を活かしていないという要因もあるのかと思う。先生方に原因があるというよりも、学校の業務体系や多忙化が改善されているのかということも学校訪問を通して感じている。

<議長>

- ・教員のスキルと ICT を活用した授業へのチャレンジ意欲という部分もあるのではないかと。特にベテランの先生であればあるほど、これまでの型から抜けられない可能性があるという風に感じている。
- ・一方で、ICT 活用等に取り組みたいのに、日々の業務でそこまで手が回っていないということもあるかもしれないが、子どもたちにはこの教育をしていかなければならない。もちろん業務の負担を減らしていくことも同時にしなければならないが、チャレンジするということを、今後教育委員会を中心にまた重視していきたい。

<村井委員>

- ・2つ気付いているところがある。1つは個別最適化についてで、1人1人の個性を生かす教育方針だと理解しており、重要なことだと思っている。一方で、1人ではでき

ない学びもある。

- ・計画訪問の度にお伝えしている、同じクラスでも先生が変わると、大人しかった子どもたちが元気よく活気づく場面を何度か見た。子どもたちは素直に反応するので、先生の質の差が出ていると思う。そういうところで学校の規模感と先生の質が大事だと思う。
- ・もう一つは ICT で、ICT にしかできない内容と、人にしかできない内容があると思っている。昔ながらの授業のいいところもあるが、うまくデジタルを活用しつつ人と人のコミュニケーションにもう少し重きを置いてもいいのかなと感じている。
- ・教職員の志望者の増加も 1 つの大きな取り組みだと思う。その視点も持ちつつ、変えるところは変えていく、そういう時代なのではないか。
- ・規模の小さな学校では先生が構いすぎしてしまうところがある。特にまだ幼い低学年はしっかり構うことも必要な一方で、最終的には自立させていかなければならない中で、自分自身の学びのスタイルを見つけていくために検討が必要であり、それが今後の学校の配置最適化にもつながっていくと思う。
- ・先生方のスキルについて、先生が板書している間子どもたちの反応を見れないことや、雰囲気作りという部分でも ICT は欠かせないツールだと思う。一方で ICT の準備が大変な部分はあるかもしれないが、1 回作ってしまえば楽なところもある。共通する授業を教える際には隣のクラスの先生と共有できるなど、ICT の良さはある。それを享受するには 1 クラスよりも 2 クラスあった方がよく、教員同士で資料作成の分担や、他校と共有などもできるのではないかと思う。そうした点から教室の設備もしっかりと進めてほしい。

< 浅蔵委員 >

- ・ICT 授業を見させてもらい、共有する画面が小さすぎて、子どもたちが見えているのが心配になる。導入される電子黒板について、黒板いっぱい文字が並ぶのであれば、見やすいのではないかと思う。
- ・先生も自分のタブレットを見ており、子どもたちもみんな座って自分のタブレットを見て、黒板も書かない授業が何ヶ所もあり、ただ読み上げているようにしか見えなかった。もっと一体感のある授業が必要ではないかと思う。最終的には黒板がなくなっただうなっていくのかというところには興味がある。

< 議長 >

- ・電子黒板の良さは、モニターだけではなく、書き込みや音声出力もできるところ。また手元のタブレットですべて操作できる。
- ・電子黒板の導入について整理して計画を立て、最終的には全校に電子黒板を導入したいと考えている。投資もかなりかかるが、子どもたちが先生の方を見て、また先生たちも子どもの反応を見ながら授業ができるようにしたい。電子黒板が当たり前に入っている状態を作ること、教員の格差もなくなると考えている。基本的に全校

全教室に入っている状況を作り、それを使うことが前提となった授業を展開することで、新しい教育を実現していきたい。

<表委員>

- ・ICTの活用と、教員の労働環境改善の2点だと思う。
- ・計画訪問で感じたのは、特別学級に行った際、誰かが教室に入ってくると集中できない可能性があるということ。ICTを活用して授業風景を廊下から見えるようにするのもいいのではないかな。
- ・また、教室にカメラを設置するのもいいのではないかなと思う。先生自身が授業を振り返り、映像を他の先生と共有することもできる。生徒同士のトラブルにも活用でき、結果的に生徒を守ることにもつながる。プライバシーの問題はあるが、防犯カメラなどの活用も並行して進めていけるといいと思う。
- ・教員の労働環境の改善として、一般企業と同じように労働時間管理を徹底していく必要がある。研修の受講に関わらず、伸びる先生は伸びると思う。その中で大事なのは教員も個々の強みも伸ばすことであり、先生の良さを引き出せるような職場環境の整備が大事なのではないか。そうすることで先生もいきいきと働けるようになり、子どもたちも楽しくなるのではないかな。

<議長>

- ・カメラは、これから確かに必要になると思う。先生を監視するのではなく、先生を守ることにつながる。
- ・最近のカメラは、子どもたちの表情を撮るだけで、心拍数の上昇や、反応を測ることができる。先生を守ることや、子どもたちの反応をしっかりと見て、「授業が楽しい」とか「学校が楽しい」をどう実現していくかを測るものにできるのではないかな。導入に当たっては保護者の意見などもあると思うので、今後、研究してもいいと思う。

○討議事項2

- ・情報リテラシーに関する取り組みについて

<議長>

- ・議題「情報リテラシーに関する取り組み」について説明をお願いしたい。

<教育委員会事務局 中田教育研究センター所長> (別添資料に基づき説明)

<浅蔵委員>

- ・大学生の子どもたちにAIの使い方を聞くと、自分に合う服の色や就活の相談などしており、様々な使い方がある。学びの中でAIをどのように使うかを、小さい時から触れることは大事なことだと思う。
- ・撮影やアップロードの禁止など、発信のモラルが大切だと思う。情報の取り方も大切だが、情報のモラルという部分をもっと教えていくのがいいのではないかな。

<表委員>

- ・AI については大人より子どもの方が詳しいと感じている。実際に家庭内でも子どもの方が詳しく、この分野については解決するのが難しいところがあり、教職員以外の外部委託も考えられるのではないかな。

<村井委員>

- ・現代は取扱説明書などのマニュアルがほとんどないが、子どもたちは教わるわけでもなく、自ら切り開いて AI を使いこなす能力に長けていると思う。日本に限らず世界標準でこういった能力が必要であり、どんどん身につけていかなければいけない。
- ・一方でリテラシーという意味で、SNS を見ると AI で作ったものなのか、そうでないものなのか分からない。そこを見極める能力を培いつつ、ICT の能力を伸ばしていく、その両立が大きな課題だと思う。

<中惣委員>

- ・また教員格差の話につながるかもしれないが、私自身も指導者として、日々時代の変化に合わせ学び続けることが、教える者の使命と肝に命じている。教員の方々が心身ともに健やかに・積極的に学びに向かうことができる環境づくりは、校長先生に懸かっているのではないかと、学校訪問を通して感じている。考え方の違いや接し方の違いから、教員・校長先生にも若干格差があると思う。校長先生方には、教員を育てるために一肌脱いで頑張っていただければと思っている。

<議長>

- ・若い世代の方がデジタルベシックな時代であり、躊躇なく入っていけるという点では優れている部分も非常に大きいと思っているが、怖さがあることも事実。
- ・有害なものに接しないようにする取り組みは行うが、全てを防ぐことは難しく、保護者や教員のリテラシーを上げていくことも必要である。
- ・校長先生の話もあったが、早速 4 月に校長先生を対象とする AI 研修を外部委託に行う。まずは知ってもらうことが大事なことであり、3 月には指導主事が先に AI 研修を受ける。先生方、特に校長先生には、正しい知識と最新の情報に触れていただき、利用を促していかないといけないと思う。
- ・我々自身もまだまだ学び続けていかなければならないが、逆に言うと AI 等を使えば、教師の多忙化も防げる可能性があると思う。授業準備においては、0 から 1 は教員にしか作れないが、1 を 10 に充実させることは AI で取り組んでもらえばと思う。
- ・現在、教育委員会で学校規模及び配置最適化の基本方針を定める準備をしている。その中で、情報のことはあまり触れられていないが、特に今後、本市が目指していく教育のあり方、目指すべき姿に、いただいたご意見をしっかりと反映させていく。
- ・ここが一番大事なことであり、その環境づくりの中に規模や配置適性化がある。この

順序を間違えることなく進めていきたい。

以上

○閉 会